



# つ北小だより

No. 7

つつじが丘北小学校

平成27年10月30日  
校長 上田 祥市

## 「反応する身体」

校長 上田 祥市

寒暖の激しさに戸惑うかのように、紅と黄色の葉がまだらに混ざりながら、次第に秋色に染まっていく校庭の木々。刷毛で擦ったようなすじ雲が流れる薄青色の空のもと、教室では静かに読書を楽しむ子供たちの姿があります。



全教員と子供たちが、少人数でお互いの作文を読み合い、感想を伝え合います。

読書の秋です。本校では年に3回の読書旬間を設け、子供たちの読書の時間を大切にしています。また、月に1～2回、保護者有志の皆さんや地域の福本さん、有松さんに読み聞かせをしていただいています。お話を夢中になっている子供たちは、自然に体が前のめりになります。面白い場面になると目が輝き、笑顔になります。お話の中に入り込んでいる子供たちの姿を見ると、どんな想像の翼を広げているのだろうとわくわくしてきます。

子供たちの反応を伝え合い、作文指導の方法の検証や評価の在り方を協議します。



「身体が自然に反応するような働きかけをしたい。」「一人一人の反応をキャッチしてあげたい。」先生たちは、そんな思いをもって研究を進めています。

本校の校内研究会では、今年度「書く力の向上」をテーマに研究をしています。子供たちが「書きたい」と思うような種（運動会や移動教室等の行事、日常の気付き、他者とのかかわり等）を、どう繋げていくか。学年ごとにどんな手立てをとれば、書く能力が身に付くのか。書いた作品(作文や新聞等)をどう評価してあげれば、子供たちは、「また書きたい」と思うのか。各学年の実践を通して、検証し、すぐに次の実践に生かしていきます。

この研究を通して意識したキーワードがあります。それは、『反応する身体』。子供たちが主体的になった時、身体に必ず反応があります。それは、読み聞かせのときの前のめりや、想像している時の表情や面白いと感じた時の動きでわかります。

さて、11月の27日(金)28日(土)に『北小こども劇場』～学校スペシャルプロジェクト～が行われます。その二日間は、学校を劇場化(その工夫は今子供たちで考え中)し、みんなで演劇を披露したり、観劇したりします。演劇は、身体が反応し合って…つまり、表情や動き、言葉がいくつも相互にキャッチボールのように受信と発信を繰り返しながら、みんなでお話を紡いでいくものです。どんな役も必要のない役はありません。

これから各学年とも台本が渡され、11月2週目には本格的な練習が始まります。この1ヶ月間、子供たちが演劇の世界で反応し合い、弾む笑顔と躍動する身体がたくさん見られるように共に創り上げていきます。「北小こども劇場」当日を楽しみにしてください。